平成２７年度第４回「柏崎市男女共同参画審議会」議事録(概要)

日　　時　　平成２７年１１月１２日（木）１５：００～１７：４５
会　　場　　柏崎市役所　４階小会議室
出席委員　　阿部委員、新野委員、梅比良委員、岡田委員、栗原委員、新澤(久)委員、
　　須田委員、西巻委員、根本委員、松原委員、山本委員、吉田委員　　１２人
　　（欠席：新澤(守)委員　１人）
事 務 局　　人権啓発･男女共同参画室
　　市民生活部長 桑原、室長 力石、同室主任 五十嵐
概　　要
　事前に委員から提出された意見を反映し、事務局で修正した計画案をもとに協議・検討を行い、基本計画の原案として審議会の意見をまとめるとともに指標について検討を行った。

１　開　　会
２　市民生活部長あいさつ
３　会長あいさつ
４　議　　事
⑴　次期柏崎市男女共同参画基本計画「かしわざき男女共同参画プラン」（案）について

（事務局から基本計画（案）について説明）

議長　　これまでの素案との変更点は、成果指標を基本計画の内容の中に組み込んでいることである。また、背景として世界・日本の動き、県、市の動きを示し、その後、前計画を評価・検討し、第２章として計画の基本的な考え方、方向性を出している。さらに、これまで、第１章にあった「柏崎市の現状」を第３章として提示していくという進め方になっている。この組み立て方が、計画を作る必要性や妥当性、また、市の条例の理念の達成を目指すものであるか、それらの視点に加え、分かりやすいものであるか、ご意見をいただきたい。

事務局　　前回の素案からの変更として、個々の重点目標に示している成果指標は、第５章に一覧でまとめている。

議長　　市には様々な計画があるが、数値目標を立てることは、他の計画でもあるのか。

事務局　　概ね設定している。毎年の進捗度を数値で表しているもの、また、事業の性質によっては、数値目標ではなく、成果目標で設定されているものもある。両方合わせ持ちながら達成度を図っているものもある。

Ａ委員　　行政的には､成果を表す数値が必要で､民間と若干ギャップがあるのは仕方がない。例えば６番「ワーク・ライフ・バランスを内容を知っている人の割合を高める」では、結果論として、アンケートを取ったら前回より数字が上がっていた、下がっていたということであって、ワーク・ライフ・バランスの内容を知っている人の割合を高めるための事業が通念を通してあるわけではない。結果の参考指標として見るのであれば

いいが、事業の内容を決めるための目標数値ではない。また、９番「ＤＶ予防啓発のための研修・講演会等への参加者数を増やす」は、本来ＤＶ被害を減らすということが大事なのであって、講演会の参加者数というのが重要な目標値ではない。

事務局　まずＤＶについて知ってもらい、あらゆる暴力の防止を多くの人に意識啓発していき、それによって減らすという考え方である。

Ａ委員　この項目は途中経過であって最終的な目標ではない。ＤＶを減らすというのが大きな目標だ。民間的にはストレートに理解ができない。

Ｂ委員　数値のほとんどは成果を見るための指標である。何％まで上げるかという目標の数値ではない。

事務局　参考指標ということになると思うが、行政としては、これによって様々な事業による市民への浸透度や社会の状態を評価していく。

Ｃ委員　指標の項目の「～を増やす」「～を高める」は当然のことであり、これが目標であれば、市民が見たときに違和感がある。

事務局　他市では、同様の表現としているところもある。また、人口推計や国勢調査に基づく労働力状態などは、女性の労働力に対する社会情勢の変化から掲載した。

桑原部長　人口については、ここまで詳細なものは不要という意見もあるが、当市の男女の人口ピラミッドでは、２０歳から２４歳の女性人口が少ない。２８年の将来推計もそこが落ち込んでいるのが柏崎にとって大きな課題。人口は減っているが単身世帯が増えている。あえて、男女共同参画社会を目指すための基礎的なデータとして上げた。

議長　市役所のパンフレットや資料では、このように人口の推移を示すことがあるのか。

桑原部長　「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を当市も発表した。総合計画の見直しでも人口減は課題になっている。

事務局　２０歳から２４歳の女性人口が少ないのは、柏崎市に固定的な役割分担意識が強く残っていることなど感じられることもあるのでは。若い女性が、勉強して自分の力を生かしていきたいときにどこを選択するかということも関係しているのではないか。

Ａ委員　「計画の背景」は、補足資料的なものであり、後でもいいのでは。

Ｄ委員　計画の目的、目標、体系のあとに計画の裏付けとなる資料（データ）があり、その次に基本計画の内容があるのでわかりにくい。資料的なものが間に挟まれている。目標を立て、その目標のために何を実行するか、次に裏付けが載ると分かりやすい。

「何ページ参照」として、資料の参照場所を示せばすっきりする。ストーリーとして読ませるとこの組み立てになると思う。

Ｃ委員　誰に読ませるのかによる。全市民に配布されるわけではない。

市の職員も担当が替わるので、初めて男女共同参画の担当になった人にも理解しやすくするためでもある。庁内や市の関係機関が事業を行うために見る。

Ｅ委員　最初に背景やデータを飛ばして、計画の目標や重点とするところを見て、振り返りのために資料を見たが、計画推進のために計画に沿って事業を行う行政の立場でつくることでよいのでは。

Ａ委員　現計画のグラフは関連したものがそのページに入っているので、読んでも中断され

ないが、今回は資料だけが出てくるので流れが中断されてしまい読みにくい。

事務局　　人口推計などは、すべてに共通であり、かかわりのあるデータである。柏崎市の現状を知り、将来の状況を捉え、男女共同参画の必要性を考えることが大切。

事務局　　（第４章基本計画の内容について説明）

議長　　２２年度と２６年度は実績値だが、３２年度の目標値が出てきて目標を達成するために施策の方向がある。２３ページの成果指標で「社会全体として男女が平等であると思う人の割合を高める」を３２年度目標４０％にするには、施策の方向１から３をやっていけば上がるという流れか。他の目標値の根拠はどうか。

事務局　　社会全体としての平等感は２２年度と２６年度の実績値はほとんど変化がなく、なかなか難しい。現計画と同じ目標値とした。内閣府でもこの項目の調査を行っており、比較できる。

重点目標２「男女平等を推進する教育・学習の充実」の数値化は難しい。「学校教育の現場において男女が平等であると思う人の割合」を今までと同じ目標値７０％にした。

重点目標３の指標、「職場における男女が平等だと思う人の割合」を、これまでの進み具合から３０％とした。

重点目標４の指標、「ハッピー・パートナー企業への登録数を増やす」は「まち・ひと・しごと創生総合戦略」にも掲げた。これは県の事業である。

「ワーク・ライフ・バランスについて内容を知っている人の割合」は、まだ浸透度が低く、企業では「知らない」が３割ぐらいあった。一般の人に対してワーク・ライフ・バランスを進めていくことを１２％から５０％にする。

重点目標５の指標、「市の審議会などへの女性の登用率を高める」は、政策・方針、意思決定過程への女性の参画の指標として重要。２６年度は２８．８％だが、２７年度３４．３％まで上がった。県は、現在３７％である。これまでと同じ４０％とした。

重点目標６の指標、「市の防災会議の女性委員の割合を高める」は、市の審議会の一つとして、女性の登用率４０％の目標の項目に含める。今回「地域」の視点を入れたことから「コミュニティ推進協議会における女性役員の割合」にしたい。数値は調査中である。コミュニティ組織の活動は女性は多いが、役員は男性が多い。女性役員の割合を上げていきたい。

桑原部長　　防災会議は充て職になっているので、会長が男性だと防災委員は自動的に男性になってしまう。また、すべての審議会の女性の登用率を４０％以上にするという大きな目標がある。「地域活動における男女共同参画の推進」という部分では、市全体でコミュニティ協議会は３１箇所あるので、女性役員の割合が指標になる。

議長　　重点目標６「地域活動等における男女共同参画の推進」は、コミュニティの方があっている。

桑原部長　　参考に、現在町内会長は３０４人いるが、女性の町内会長は１人いるかどうかなのでまだまだ遅れている。

事務局　　基本目標Ⅳの「男女の心とからだを守る環境づくり」では、「配偶者等からの暴力防止及び被害者支援基本計画」は、柏崎市のＤＶ防止基本計画として位置づけた。

重点目標７の指標は「ＤＶ相談窓口を知っている人の割合を増やす」として８０％を設定したい。今後は若年層向けのデートＤＶの予防啓発に力をいれていく。

市民意識調査の「ＤＶだと思うか」をグラフにして載せた。「ＤＶにあたらない」「どちらとも言えない」という配偶者や恋人との間の暴力をＤＶと思わない意識を変えていかなければいけないということを施策の中で出していきたい。

重点目標８の指標は、市の健康増進計画の「子宮頸がん・乳がん検診の受診率」の目標を載せた。健康寿命を延ばし、健康でいることは、男女共同参画社会の形成のために重要である。

重点目標９「困難を抱える人への自立支援」だが、障害のある人、ひとり親、高齢者など、様々な人が個性と能力を発揮するために、男女共同参画の視点で支援を行っていくところである。成果指標を「障害者の就労支援する福祉施設を退所して一般就労する人を増やす」に修正したい。障害福祉計画に沿った目標値である。

議長　　重点目標７の「ＤＶ防止基本計画」は、福祉課と一緒に作られたものか。

事務局　　福祉課が中心となって作成した。アンケート結果は、ＤＶを文章で定義してもなかなか理解できないため、そのまま掲載した。

Ａ委員　　市の職員にはこの計画はわたるのか。

事務局　　たいていの計画は各課に一冊は備えている。ホームページ上で見ることもできる。

桑原部長　　市の「ＤＶ防止基本計画」のところは、他よりも内容が厚くなっている。

Ａ委員　　成果指標の２番目の「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきであるという固定的な性別役割分担の考え方に否定的な人の割合を高める」は、思想をコントロールをしている気がして、もう少し言い方が他にないか。思想の自由は憲法でも認められている。また、夫婦の中で合意があれば役割分担は決して悪いことではない。

Ｃ委員　　固定的な性別役割分担の考え方の一例として表現されている。

事務局　　アンケートは前回との比較もあり、また、短い文章の中では表現が限られてしまう。

Ｅ委員　　「否定的」ではなく、「夫は外で働き妻は家庭を守る」という「その考え方にこだわらない」などがいい。調査項目自体が時代にあっているかどうか確認していく必要がある。次回、３２年度の調査時には「捉われない人の割合を増やす」で調査をし、比較するとき場合は、過去の聞き方を明記することでどうか。

Ｇ委員　　女性の労働力が必要になると言っているが、家庭では、女性の家事の負担が多い。男女の意識がここに表れている気がする。表現の問題はあるかもしれないが、本当の意識の部分での意味が含まれている気がする。共稼ぎの女性はすべてを理解できる内容のような気がする。共働きでない家族の方は含まれてないのではないか。

Ｃ委員　　含まれている。大きい意味ではそれぞれの人権のこと。皆が夫は外で働き妻は家庭を守っているのではないし、逆もあるし、男女とも家庭のことをする人もいる。

Ｇ委員　　夫が勤めて専業主婦の人は、あまりこういうことを考えてないのではないか。

Ｃ委員　　考えるか考えないかは別として、それぞれの人権を尊重している家庭であればいい

事務局　「それが当たり前、それありき」というのは違う。そういう意識が柏崎には根強く残っている。子どもに連鎖する。子どもを産むことは女性にしかできないが、その他は女だから男だからを決めつけないで考えていこうということだ。

Ｃ委員　しかしながら、「妻は家庭を守る」ということが固定観念だと言われるのが侵害だという少数派がいる。柏崎は後進国なので圧倒的にこの考え方なのだけれど、新しい世代や外を見てきた方、まさにこういった方が先進的な夫婦関係を築いてきていて、それはお互いに尊重しながら決めているにもかかわらず、「固定的な役割分担意識」であると否定されているように聞こえる。そこが引っかかるところである。

議長　問題は、アンケートの聞き方がそのように書かれているからだが、「夫は外で働き…」を外して「固定的…」というところから始めると、難しいことか。

Ｆ委員　例えば、次期調査時点では、２２年を実績値と言わず参考値とし、注釈で質問が厳密には変わっていると説明してはどうか。

議長　固定的な考え方に縛られることがいけないということだ。

Ｅ委員　「否定的」という書き方だと絶対だめだという感じになる。「こだわらない」、「捉われない」とかがいい。

議長　最初の問題に戻るが、この計画はある程度限られた人が見て今までの流れが分かるように作ったが、世界の流れ、柏崎の現状が途中に挟まり、計画の策定から基本的な考え方まで、大きいところから小さい方へ流れた方がいいのか。

Ｄ委員　読む方が機能的だと思うほうを選んでいただければいい。個人的には世界のことがありそのような要請もあって、柏崎の現状やアンケートの結果から基本的な考え方があって、２章と３章が入れ替わっている方が読みやすい。だが、使う立場の行政の方が有効に機能するほうがいいと思う。

議長　皆さんからご意見をいただきたい。

Ｆ委員　完璧な計画を作ったとしても、それが真に男女共同参画のことを理解しているかというと、そうではない。趣旨、背景などの前段を読んでいき、自分に落とし込むところの方が実は本当は大事かと思う。２章と３章の順番はどうかなと思う。ボリュームがあるが全体的にはいいと思う

Ｇ委員　「男女共同参画って何なんだろう」ときて、人口の推移や男女共同参画社会の実現が求められるというのを読んでそういうことかと思った。人口減少による労働力不足から男女共同参画で労働力を言い始め、女性の労働力を求めているんだ、そのためには男女の意識を変えていかなくてはならないのかとつながった。だから、世界や国はどうかというのを読んでいても、世界が何を言いたいのか、国は何のためにこれを県や市に下ろしてきたのかということを、全く素人の私には理解するのに時間がかかった。ニュースで見て「男女は平等なんだよ」と自分なりに思っていたが、ここで全然違うということを感じた。

Ｈ委員　全体的な流れとしてこれでいいと思う。

Ｉ委員　コミセンにも配布されるのか。コミセンではこれをよく見ているほうで、文字だけだと読み込めなく、コラムを見て納得する部分があるので、地域の方が見ても分かる

ようなものを載せていただき、地域の方に目に触れるような形のものがいい。M字カーブも一言コメントがあると、そこの比較も分かると思う。

Ｄ委員　　だんだん進んでいくと片仮名が多くなり、それに当たる日本語がなかなかないということは、日本にそういう文化がないことに改めて気づいた。

Ｅ委員　　この計画を作っている職員がたった２人、これだけ全課にまたがる壮大な計画を作っているのにアンバランスだと思う。市長がここにどれだけの力を掛けているのかなという疑問が生じた。市役所全体で考えていくということが、もっと全面的に見えればいいと思う。これだけ素晴らしい計画ができたのであれば、意識改革は個人個人ががしていかなければならないところなので、もう少し市民周知に力をいれてほしい。次の計画の見直しのときにチラシを作るなどの予算を取ってはどうか。

Ｊ委員　　とても読みやすかった。いろいろ人に普及できるようなこれからの取組が期待される。計画もどんどん変容していくと思った。

Ｂ委員　　全体的にいいと思う。働くということとＤＶが少し強いように思うが、悪い話ではないと思う。行政の人達が政策等を掲げていく中で、市民の意識をどうやって変えていくのかが一番大事だと思うので、そのためにはどうしたらいいか導ける形になればいい。

⑵　今後のスケジュールについて

５　次回審議会の日程について

事務局　　また再度調整させていただきたい。

６　閉会あいさつ

新野副会長　　男女共同参画は人権が主で欧米から始まったと聞いている。国際連合から日本がすごく遅れていると言われ、何度勧告を受けても、日本は男女共同参画に本格的に取り組まなかった。社会のトップが男性だった時代なので、火が付くのが遅かったことと国民性だと思う。本来は経済の為でもなく人口増の為でもない。未だに「働かないと日本はやっていけないから」と、言い方を変えて施策を行っているという誤解を生んでいるのが残念だ。でも、本来は違うというところを皆に伝え続けなければ、そうなってしまう。一方で、男女共同参画では「それぞれの個を尊重しましょう」ということが重要なので、個の重要性と経済のことを両輪として、日本は進まざるを得ないところにある。若い方の未来も含めて頑張らないといけないと思った。

誰のためにやっているのかと思うと、本来市民のためなので、市の中にもこういう動きがあることを何とかして伝えていかなければいけない。

アンケートの結果に若い方の認識が捉えられていないということが数字になっている。市の動き、市民の意識、どちらか一方が高まっているのでは進まないと思っている。ダイジェスト版を使うなり、どうしたらいいか提言や議論が続くといい。